

第1回三朝町温泉を活用した健康まちづくり事業ワーキンググループ会議 (議事録)

【日 時】 令和4年11月21日(月)19:00~20:00

【場 所】 役場第2会議室

【参加者】 別紙のとおり

【内 容】 次のとおり

1 開会(村上企画課長)

失礼いたします。皆さんお待たせいたしました。夜分お忙しいところ、本日はご出席ありがとうございます。定刻よりは少し早いですけれども、委員の皆様おそろいのようにございますので、ただいまから、第1回三朝町温泉を活用した、健康まちづくり事業ワーキンググループ会議を、開催したいと思います。会議の資料は、すでに、お席の方にお配りしております。これに基づきまして、進めたいと考えております。1枚目が次第ということになっております。次第に沿って、進みたいと思います。円滑な進行にご協力をお願いいたします。はい。申し遅れましたが私本日の進行を務めます。三朝町役場企画課長、村上と申します。どうぞよろしくお願いいたします。それでは早速、次第に沿って、進めて参ります。開会ということで、三朝町副町長の赤坂からご挨拶を申し上げます。

2 副町長あいさつ

本日はお忙しいところお集まりをいただきましてありがとうございます。そしてこのワーキンググループの立ち上げに当たりまして、医療福祉の分野、分野として公募委員の皆様、それぞれの分野から、参加しまして本当に感謝しております。後程、担当からその取り組みの背景等についてご説明を申し上げますが、町では昨年度から、温泉を活用した健康まちづくり事業の展開に向けて検討を進めているところでございます。これは、三朝町の貴重な資源であります三朝温泉がずっと古くから、その効能について研究もされてきて、医療との連携に取り組んできたというところがございます。それを観光に活用ということで、取り組みを進めて参ったところでもありますけれども。やはり我々こういう仕事をしていますから、そういう部分で健康との繋がり、温泉と健康とのつながりを意識しておりますが、それが町民全体に浸透しているかというところも必ずしもそうではないということがございます。やはりラドン温泉の健康効果というのを、町民の皆さんが、享受できるという三朝町の取り組みはやはり必要ではないかというようなことで、今回の取り組みに上げようということがございます。

最近健康寿命ということがよく言われておりますが、町においても、健康寿命を延ばすということで、例えば福祉の分野で介護予防、いわゆるフレイル予防として取り組んで、元気で長生きということを取り組んでおるところでございますが、これに、健康と温泉を組み合わせた仕組みというもの、どうしたらできるのかというようなことでそれを検討し、必要であれば整備についても考えていこうということがございます。30年ぐらい前になるとは思いますが、ラーバンルネサンス構想、健康道場というのが計画をされたときもありましたが、急激な経済状況、社会情勢の変化によりまして、計画を凍結という形になってから、そのままもう30年近くなるというようなことがございます。ここで新たに先ほど言いました、社会や状況の変化ですね、温泉と健康との繋がりというものを意識する中で、新たにやはりそういうことを考える時期ではないかというようなことで、今回の取り組みにつなげようということがございます。そうしたことで、町民がこれを享受

することで、さらにはそのことがまた観光にも新たな評価として繋がるというようなことで、今回ワーキンググループの委員の皆さんには、それぞれの立場で、忌憚のない意見を伺いまして、それをもとに構想を作っていこうということでございますので、どうぞよろしくお願ひします。

3 辞令交付

② 課題の共有

村上 企画 課長	それでは3番の辞令交付に移りたいと思います。委員の皆様へ、辞令書をお渡しをしたいと思ひます。委員の皆様には、自席でそのままお待ちをいただければと思ひます。糸原委員から順に回ってお渡しをして参ります。
----------------	---

(各委員に辞令を交付)

4 自己紹介

村上 企画 課長	それでは続きまして、次第の4番。自己紹介に移ります。本日初めてお互いお会いになるという方もいらっしゃるかと思ひます。お顔と名前を覚えていただける機会ということで一言ずつお願ひできればと思ひます。それでは、最初に糸原委員から自己紹介をお願ひいたします。
糸原 委員	三朝温泉病院の糸原と申します。よろしくお願ひします。医療機関として何ができるかというところで、少しでもお役に立てればと思ひますのでどうぞよろしくお願ひします。
山根 委員	同じく三朝温泉病院のリハビリテーション科の科長をしています山根と申します。医療の面から何か協力できるかってことを皆さんと一緒に話合っていきたいと思ひます。よろしくお願ひします。
松田 委員	三朝町社会福祉協議会の松田でございます。皆様には日頃から、本会の福祉活動につきまして、ご理解ご協力を賜りましたこと、この場を借りましてお礼を申し上げます。本会では2000年の介護保険制度以前町からの受託で、在宅の高齢介護の人の入浴の支援ですとか、或いは平成3年、町立福祉センター開設以来、三朝町老人クラブ連合会を初めとした地域の福祉団体が、温泉施設である福祉センターを中心に、地域での活動等の拠点としてたり、また、広く町内外の皆さんには福祉センター温泉入浴でご利用していただいております。今後の地域福祉、支え合い等の部分で、またこの温泉の活用といったところで一緒に勉強させていただきたいと思ひますので、よろしくお願ひいたします。
牧田 委員	始めまして、牧田かおりです。看護師をしながら、自宅の方で、遊びとは学ぶという活動を拠点において、子どものための遊びとかおもちゃとか、講演会をしたり、無料おもちゃ広場という活動もさせてもらっています。少し場違いのところに来たかなとは思ひますが、若い親子世代、子育て世代に、とても魅力ある三朝町を発信できるような、何か協力ができたらなと思っております。どうぞよろしくお願ひします。
田村 委員	湯治宿ゆのかという旅館を始めて8年目に入りました、田村といいます。県西部から移住をしてきました。その時、10数年前に父親が、胆管がんの手術の後によりよるようになって、三朝に湯治に来て、手をつきながら家を出ていった父親が、10日後に手を振って帰ってきたことを目の当たりにして“びっくり”ていうのが三朝町とのご縁の始まりでした。それを知らずに、秋田の玉川温泉を予約しようとして「いっぱいだ」と断られて、知り合いを通じて三朝温泉も良いらしいって話を鳥取県民ながら知らなくて、初めて来たというのがきっかけでした。それを何とかしたいなあってずっと思っております、今回公募に応募させていただきました。よろしくお願ひします。

米田 委員	はじめまして。旅館の依山楼岩崎で、働いています米田と申します。よろしくお願いたします。私は、この三朝町に帰ってきて約6年ぐらにはなるのですが、それまで関東にいたり、大阪にいたり、海外にいたりしていました。いろいろ経験を積んで戻ってきているので、そういった経験をこの会で活かせるかなと思っていますので、よろしくお願します。
山内 委員	皆さんこんばんは。NPO みささ温泉からこの会議に出ています、山内有二と申します。NPO 三朝温泉は、三朝温泉街の中心、観光案内所の隣にたまわりの湯という共同浴場があり、ここの管理運営、三朝温泉街の中にある駐車場の管理運営、そして、ラドン熱気浴泉のすーは一温泉の管理運営、この三つを軸に事業をしております。普段のお客さんとのやりとりとか、自分自身も三朝温泉を中心にいろいろと活動しておりますので、そういった経験の中からもいろいろお話ができればと思います。よろしくお願します。
岡崎 委員	こんばんは。商工会から来ました岡崎と申します。現在はムーデザインというデザイン会社をやっています。それと、温泉をタンクローリーで配達したり、出張足湯で関西東京に持っていっています。温泉に関しても個人として鳥取大学と共同で研究したりしています。ラドンに関してのいい結果も出ていますし、これからいろいろ皆さんと協議していきたいと思っています。よろしくお願します。
御船 委員	旅館組合から来ました。理事長から温泉のことだからお前が行けということで出ております、木屋旅館の御船でございます。もう一つ、旅館組合じゃなくてもう一つ顔がありまして、現代湯治推進協議会というのがございまして、そちらの方の会長もさせていただいております。こういう集まりになりますと、旅館の温泉に入りたい、もっと身近にしたい。安く入りたいという話がよく出るんですけど、大前提としてご理解いただきたいのは、私たちビジネスでやってるということをご理解いただきたい。その中で、町民が享受する、そこを議論していただきたいなと思っています。一つ言えるのは、医療を目指す、必ず西のオーストリアのバドガシュタイン、東の日本の三朝温泉となるそうです。これは、放射線治療のところ。それは何かって言うとラドン泉であると。その温泉医療をきちんと受け継いで現在もしていただいているのが三朝温泉病院さんです。そこと提携しながら、今、三朝温泉、それから町、県のバックアップしてもらって、岡大、それから、日本原子力開発機構の支援をいただきながらやっているのが、現代湯治というのをやっております。どんなことをしてるのかっていうと、ラジムリエとって、入浴アドバイザーのコンサルジュをやっております。直接、旅館の施設を開放しなさいみたいな話にいきなり飛躍するんじゃないかと、それ以外にも、協力できること、例えば温泉の仕組みだとか、それから利用の仕方だとか、効能効果だとか。どういうふうがいいのだとかできるだとかいうようなことのお話は、ラジムリエとして、できるのじゃないかなと思っています。以上です。
アントニー 委員	こんばんは。三朝温泉観光協会から来ています、リエヴェン・アントニーと申します、よろしくお願します。明るい話からいきましょう、三朝に来て12年ぐらになるんですけども、来た時には細くて、若くて、トムクルーズと呼ばれるほどのカッコいい男だったんですけど、いろいろね、白髪も、体脂肪も増えてですね、そろそろ健康に気をつけないといけない年齢になってきました。今回の会に、私がどのように役に立てるかどうか、ちょっとまだわからないところがありますが、まずは勉強として、やっていこうかなと思いますし、何か少しでも貢献できることがあれば、協力したいと思います。よろしくお願します。
青木	三朝町役場の青木と申します。職名で申しますと地域振興監という名前をいただいております。

地域 振興 監	りまして、現在のところ、農林課、観光交流課、課の調整役みたいな立場で仕事をしております。今回は、この温泉を活用した健康まちづくりのワーキングにつきまして、名簿には座長というふうに書いてあります。進行役を務めながら、皆様のご意見をいただくという役回りかなというふうに思っております。それぞれがいろいろな知識、経験、いろいろなものを持って集まっていたらと思いますので、ぜひ各々が思われる仕組みとか、やり方とか、そういったことに、言葉をいただければ、それを調整してまとめるのが私たちの役割だというふうに思っております。冬場でなかなか出にくい時期になろうかと思えますけれども、よろしく願いをいたします。
---------------	---

(以降、事務局の自己紹介)

5 概要説明

村上 課長	<p>それでは、次第の5番目。概要説明に移って参ります。そもそも、温泉を活用した健康まちづくり事業で何とかがあっていうところがあるかと思えます。ここで今一度、認識を合わせられればということで、考えております。ということで、改めてその要点につきまして、事務局の方から説明をしたいと思えます。説明は、お手元の資料に沿って進めて参りたいと思えますのでよろしくお願いします。</p>
岩本 係長	<p>資料1から順に説明していきます。まず、資料1取り組みの背景でございます。</p> <p>三朝町では、平成30年度に町の総合計画としまして、第11次総合計画を策定しました。総合計画は、町全体の方針などを決める最上位の計画であり、この計画では、町全体の将来像、分野別の将来像などを策定しております。まず、全体の将来像ですが、これは、笑顔と元気があふれ輝く町としております。この言葉を少し細かく掘り下げてみますと、笑顔というキーワードには町民皆さんの活力、エネルギッシュな姿であったり、産業の振興、交流促進といったようなことにつながっていくものを意味しているように分析しております。そして、元気につきましては、子育てや教育、安全で安心できる環境整備といったものに加え、健康であることを意味しているものと考えています。そして、健康分野における将来像はいのちと健康を育む町としており、関係する方針については健康で長生きするということにつながってきております。これらキーワードから、この総合計画において、ひとつの柱になるものを言葉で表してみますと、それは、住み慣れたこの町で健康で自分らしく暮らす（健康寿命延伸）でございます。そして、それを達成するためには、病気等々にならないための予防が何よりも大事であると考えます。病気や介護などの状態になってから対策をとることも重要ではありますが、ならない、予防にこそ重点を置いていくこと、予防を総合的に推進していくことも重要であると考えております。これは、高齢者だけのことでなく、全世代にそれは通じるものであると思っております。</p> <p>そして、予防に関して必要になることは、1ページの下段にこれまで医療と深いかわりを持ってきた三朝町温泉を活用すること、また日常的な運動、加えまして健診などが関連することになってこようと思っております。温泉を活用した取り組みといったことについては、総合計画から1年後になります、町が策定したいいわゆる地方創生総合戦略にも明記をしているところです。</p> <p>2ページになりますが、この健康づくり事業が進んでいくことで得られる影響を考</p>

えてみました。期待される効果としておりますが、まずは、健康寿命の延伸です。これにより、医療費が下がること、介護給付費等の費用削減になること、それだけでなく、人手不足解消にもつながるものと考えられます。また、健康につながっていくことが進むことによりまして、町民皆さんにとっても誇りになると考えています。そして、それらは人を呼び込むことにももしかしたらつながっていくかもしれません。また、そうした仕組みが確立されることにより、新たな観光の魅力の切り口にもなり、目玉にもなることも可能だと考えます。その下の絵はいまの期待される効果をイメージ化したものです。

続いて資料2に説明を移します。さきほど資料1で説明しました背景を整理し、この温泉を活用した健康まちづくり事業につきましてです。さきに話したように、町の全体目標は、健康寿命の延伸でございます。そして、温泉を活用した健康まちづくり事業についての目標については、背景からキーワードを引っ張ってきまして、仕組みづくりを作りあげることにあると整理しました。そして2ですが、このワーキンググループの役割については、その仕組みづくりのための大きな方針である基本構想の原案を皆さんとともに作りあげることとしております。基本構想として検討すべきことは、どうやって三朝温泉の健康づくりを進めていくのか、そこにどう温泉を組み合わせるのかをメインに考え、必要なものなどについても一緒に考えていければと思っております。

資料3については、このワーキンググループの要綱でございます。内容については、割愛しますが、今説明したことを記載したものです。

最後に資料4でございます。スケジュールです。全体のスケジュールとしては、令和6年度以降までの動きを想定しております。

今年度については、基本構想を。来年度には基本構想を元に、もう一歩具体化したもの、基本計画を作ろうと考えています。そして、翌年には詳細なプランを作成し、でき次第になると思っておりますが、必要なものの整備に移行していこうと考えているところです。なお、基本構想の作成にあたっては、本日11月21日のワーキンググループ会議をキックオフといたしまして、2回目を12月中旬頃に、2回目の会議を踏まえて、我々事務局によりまして原案のたたきを作成しますので、新年になりますが、そのたたきについて皆さんから御意見をいただこうと思っております。

皆さんから意見をいただき、構想の精度をあげたものを作りあげましたら、検討委員会を立ち上げる予定としており、そこで、原案についてお諮りしながら、策定へ向けていきます。なんとか年度内完了を想定しながら動きを作っていきたいと思っております。

なお、ワーキンググループ会議については、本日の全大会をしまして、次回は温泉と健康でわかれて会議を開催。そして再度全大会で皆さんにお集まりいただき、ご意見を伺いたいと思っておりますので、ご協力をお願いします。

その下段のお知らせについては、後ほど、7 その他で説明をさせていただきます。以上、概要の説明でした。よろしくお願ひいたします。

6 検討事項等

村上 企画 課長	<p>ちょっと聞いてみたいっていうことがもしかしたらあるかもしれません。質疑等、或いはご意見等ございましたらば、その次の下の6番のところで、まとめて時間を設けたいと思いますので、よろしく願いいたします。</p> <p>それでは、次第の6番。検討事項等に参ります。本日の会議の要の場所でございます。一つは基本構想へ向けた検討のポイント。それから、現況について、関係各課ということで、お話を参りたいと思います。それでは現状から見る基本構想へ向けた検討ポイントにつきまして、座長の青木地域振興監からご説明申し上げます。</p>
青木 地域 振興 監	<p>はい。失礼します。資料5をご覧いただきたいと思います。検討事項等についてということで、お話をさせていただきますが、先ほどから似たようなお話を繰り返しておりますので、少し楽に見ていただけたらと思っております。スケジュールとか、要項とかっていうのは先ほど説明した通りであります。ここに示しております基本的な考える上でのフレームといいますか、やり方というのを示しているつもりでございます。結局、部会を温泉関係と健康福祉という形で二つを持っております。温泉部会につきましては、主に観光関係の皆さんで構成をしておりますが、これは、いわゆる日頃から、三朝温泉の効果効能につきまして、それを使いながら、観光客への説明、PR、誘客に結びつけておられるということでございますので、そういった点で、町民の健康づくり活動に、それを活かすというには、何ができるか、何をしたらいいのかということがあろうかということで、そういうくくりをしておりますし、先ほど御船さんも言われましたけど、例えば、説明という言葉になるのか、PRという言葉になるのか、そのあたりはあろうかと思いますが、そういった指導とか、関わるという部分もお持ちだというふうに思っております。一方で、健康づくりの部分でございます。こちらには、病院の関係でありますとか、福祉医療関係の皆さんを入れております。こちらでは現在でも温泉を、一部そういったことにも使いながら来ておられますので、そういった部分を見ていただきながら、例えば、医療分野との整合性であるとか課題、それからさらに温泉を利用するとしたら、どういうことが必要なかどうということを考えたら面白いのかというようなことも含め、現在の三朝町の健康づくりの取り組みを踏まえた施策等もお話をさせていただけるといいのかなと思っております。これらの温泉に対する感覚と健康づくりに対する感覚を一つに合わせて考えようとしているのが、どう組み合わせるかという真ん中のフレームだというふうに思っております。最終的には何が必要かと一言で書いておりますけれども、どういう取り組みができるのか、したらいいのか、そういうことに議論を持っていきたいというふうに思っております。健康づくりにおける、温泉の活かし方、使い方というのは、いわゆる世代によって大きく異なってくると思っております。フレイル予防が必要な年代もあれば、スポーツの後に汗を流すというリラクセスに繋がるような部分もございますので、幅広く話を進めていきたいと思っております。そういったものを組み合わせる中で必要な施設整備</p>

	<p>でありますとか、スタッフの問題、人材の確保、ソフト、仕組みについてもグレードアップというか、上がっていく仕組みづくりを検討していきたいという思いであります。ぜひ皆様のご協力をいただきたいと思います。</p> <p>この後、温泉についてと、健康づくりについて、観光交流課と健康福祉課から、その状況についてお話をさせていただきたいと思いますので、今後始めて参ります会議において、皆さんのヒントといいますか、そういったものにしていただけたらと思っております。どうぞよろしく願いいたします。以上です。</p>
村上 企画 課長	<p>はい。それでは、三朝町の温泉状況報告につきまして観光交流課の方から、ご説明申し上げます。</p>
藤井 観光 交流 課長	<p>観光交流課でございます。三朝温泉の現状ということでお話をさせていただきたいと思います。初めに、三朝温泉の観光客数についてということでお話をさせていただきます。平成29年からずっとグラフを作っておりますけれども、平成29年30年、令和元年、大体35万人ということで、年間の観光客数と。コロナに入りまして、24万、19万8000ということで落ちているというところでございます。令和4年度、1月から9月、暦年でございますと、16万2000、16万3000人というような形で、観光客の入り込み数があるということでございます。コロナ前は大体1日1000人ぐらいが宿泊をいただいていたというところでございます。インバウンド、外国人の方も非常に多かったところでございますが、一番大きいところで言うと、外国人でいうとこの緑のところ、例えば、香港、中国、台湾といったような部分が多かった部分です。それから近年では、フランスの方も、50人ぐらいから166人ということで、どんと上がっていったところがコロナ前の実績というところでございます。じゃらんとか旅行雑誌とかで、鳥取県の旅行者の特徴というところで、2021年度になりますが、大体鳥取県には、約89万人、90万人の方がお越しになられると。うち、中四国からは半分、関西からは25%ぐらいということで、中国四国関西で、大体70、80%というようなことのように、それから宿泊費用としては、全国で大体5万円ぐらいですけれども、鳥取県だと4万6000、5000円ぐらいと少ないというところがある。それから最後、個人旅行が9割で、リピーターの方は6割というようなことが、鳥取県の旅行に関する特徴というところのようでございます。三朝温泉の特徴、これは、泉質なんかの話になるんですけども、先ほどからちょっと話がありました、例えば、温泉の泉質でいうと、10個あると。放射能泉ということで、三朝温泉は、泉温が高く、ラドン濃度の高い温泉地の日本の代表ということでございます。世界的にも西のバドガシュタイン、西の三朝温泉と言うような話で、世界的にも有名であるということです。お話の中で少し出てきたかもしれませんが、ホルミシス効果、放射線を受けると細胞が活性化すると、自然治癒力を高めることが言われて、効能としてはいくつかある中で特に赤いところ、効果が高いんじゃないかというようなことを私どもはご紹介をしているところでございます。三朝温泉の特徴ではないですけど、現状で申し上げますと、旅館の数は22。宿</p>

	<p>泊希望は大きなものから家族系のものまでであると。それから形態としては、観光であったり、湯治に特化したという部分の旅館がございます。温泉自体は個人の源泉、それから区の源泉。あとは、病院さんが持っておられたり、岡山大学が持っておられたり、というようなことでございます。町の配湯で申し上げますと、大体、昨年だったら5万3000トンぐらいの温泉の配湯が、あったということをお聞きしております。もう一つ、先ほど御船委員さんからもありましたが、現代湯治推進協議会が活動していらっしゃる。連泊を推進したり、ラジムリエの育成と、温泉の利用方法、すでに皆さんご存知だと思うんですが、当然入浴、熱気浴、オンドル、飲泉の利用、それから観光利用として足湯だとか、商品の造成、それから温泉宅配など。病院さんおられますけれども治療の利用ということでございます。ちょっと最近の話で言うと、すーは一温泉という熱気浴の施設がありましたけど、そこでエアロビック協会さんがスローエアロビックといって椅子に座ったエアロビをちょっと試してみたいというようなお話もいただいたところなんです。それから、ちょっとここに記載はしておりませんが、昨日、日本遺産のウォークというものを行いました。それ以外でも、皆さん温泉、三朝町のウォークなんかで、結構使っていただいております。昨日は200人の定員で200人に来ていただきました。あとは、観光協会さんが今、電動アシスト自転車の整備を広めていただけているところなんです。それから補足ですけれども、こういったお話の前に、令和元年になりますか。健康と温泉フォーラムというような形で、全国的にその温泉観光地での連携を図っていきましようというような会も三朝町の方で開催をさせていただいたところがございます。以上簡単ですけれどもご説明させていただきます。</p>
<p>村上 企画 課長</p>	<p>それでは続きまして、三朝町の健康作りの現状につきまして、健康福祉課の方からご説明を申し上げます。</p>
<p>福田 主査</p>	<p>健康づくりの現状ということで、町が取り組んでいる健康づくりについてお伝えをさせてもらえたらと思います。まずは、出生死亡の経年変化です。この資料では、昭和31年から載せていますけれども、団塊世代の方でいくと多分出生が300人に近づくぐらいあったんじゃないかなと思います。平成に入ったころから出生と死亡の数が、逆転していきまして現在は死亡の数が137人。出生については、令和3年が20人で、令和4年度の見込みでいきますと18人という、20人を切るような現状になってきています。で、三朝町民の死因別死亡率で見ますと、がん、老衰、心疾患、脳血管疾患っていうのがだんだん増えてきているっていう現状です。全国的にはがんがとっても多いんですけども、三朝町の特徴としては高齢化に伴ってこの老衰っていうのも少しずつ増えて、割合が高くなっています。先ほどもありましたが検診の受診状況っていうのを見てみると特定健診の受診率は、令和2年がコロナの影響でぐっと全国的にも受診率が下がりましたが、令和3年度は35.1%で、全国に並ぶぐらいの、数字になっていて、令和4年度ももう少し伸びてくるんじゃないかなっていうふうに思っています。がん検診の受診率は、令和元年度がこちらでして、全体の年齢で見ると、全国に</p>

比べてこのピンクが三朝町なんですけど、少し低いような状況ですが、70歳未満の受診率で見ると、全国よりは、高くなっているっていうような、ちょっと乳癌と胃がんだけが低いというような状況です。介護予防ですが、介護の認定率は、県に比べるとほんの少し高いような状況です。で、介護の申請理由としては、高齢による衰弱ですとか、転倒や骨折っていうことが、おおよそ申請の大きな理由になっています。で、そういったことを踏まえまして、包括支援センターですとか、健康対策の方で、町の社協、温泉病院さんとも連携させてもらって、フレイル予防として、通いの場をどんどん増やしていこうっていうようなことを取り組んでいるとか、習慣ラドン体操っていうのを、実施してまして、庁内6ヶ所、今ちょっとコロナの関係で5ヶ所なんですけれども、実施しているっていうような状況です。通いの場については、集落単位で、おおよそ町内16ヶ所です。年間6回程度に、町社協、保健師、栄養士、それから町内の事業所さんが分担している状況ですね。フレイル予防っていうことで、集まる場を増やそうということで温泉病院さん。山根科長さんとか、大変協力していただいて、筋力アップ教室っていうのを今年度、町内一つの集落で開催しているところです。

運動の促進っていうことなんですけれども、運動習慣がある人の割合、これは先ほどの特定健診を受診された方のうち、日常生活において歩行または同等の身体活動を、1日1時間以上実施していますかっていう質問項目が、特定健診の中にあるんですけども、それであると答えた人の割合が、町でいくと、全国、県に比べてとっても低いっていう、運動してるかなる人が低いっていうような、現状です。町としては、ノルディックウォークを推奨しているんですけども、理由としては4点歩行で膝や腰への負担が軽いですとか、全身の90%を使うといったことで筋力アップにつながる、あとは消費カロリーが高いっていうことと、介護予防にも効果的っていうことで、ノルディックウォークを推奨してはいるんですけども、参加者がおおよそ60代から70代の女性が多いっていうような現状です。その他町民さんがしておられる運動習慣としては、グランドゴルフやペタンクなどがあります。健康づくりのグループ活動っていうのを、してまして、この目的としては、自分たちの元気をそこで充電し、それを町民さんに発信していこうというのが令和元年に立ちあげたんですけども、わらべの会などがあり、これらは事業を通じて自分の元気をためて、それを地域に発信するっていうグループを立ち上げています。

令和4年度に町の健康課題を整理して今年度の保健事業としてまとめた資料ですけども、取り組むべき対策としては生活習慣に起因する病気の予防と、正しい生活習慣の啓発定着に努めるっていうこと、運動づくりの習慣化、筋力低下による介護予防健康寿命の延伸を図る、医療費増大を招かないように、慢性腎臓病とか透析への移行について早期の対策に取り組むっていうようなことを目的に、元気を増やすということ、病気を減らすっていうことを主な目的にしてこのような事業を展開しているっていうような状況です。

三朝町の子育て支援を考える推進会議を平成28年の8月から開催しました。その中

	<p>で、子育て世代とかの意見の中で、ありましたので、そこを紹介したいなと思います。今、この結婚して三朝町に住んでいるけど、三朝温泉の恩恵を受ける自分たちは少ないなあとか、三朝温泉がもっと身近に感じられるといいなとか、家族で温泉に行ける機会がもっと増えたらいいなっていうような話が多く出ていました。この背景としては、みんながもっと三朝温泉の良さを発信したいっていうことを言っておられまして、田村委員とか御舩委員がおっしゃったような、三朝温泉の効果について、意外に知らないなとか、自分たちがもっと知っていたら発信できるのになっていうような声がたくさんあったなっていうことを紹介させていただきます。ありがとうございました。</p>
村上 企画 課長	<p>それでは、ここで意見交換の時間を設けたいと思います。事務局の方から、縷々ご説明させていただいたところです。いろいろ盛りだくさんなものですから、ここがわからないとか、もっと聞いてみたいということがあろうかと思えます。特に順番とかはございませんので、気になることございましたら委員の皆様から、ご発言いただければと思います。係の者がマイクをお持ちしますので、挙手にてお示しをいただければと思います。それでは、いかがでしょうか。はい。松田委員。</p>
松田 委員	<p>また、次の機会ということもあろうかと思いますが、健康づくりという中では、三朝町社会福祉協議会でも、町からの受託の事業、或いは地域福祉活動として、例えば各集落ごとでの、サロン活動の推進、高齢者の皆さんが、家に閉じこもることなく、それぞれのお住まいの地区の公民館などを活用して、集まっていたいて、体を動かしたり、会話をする機会を維持するところ、推進してるところではございますので、そういったことの中で、そのサービスを提供するというところ以上に、必要になってくるのが高齢者の方或いは町民さん自身が、ご自身でそういった機会を、作っていくところが、大事なところだと思います。冒頭ですね老人クラブ連合会等の福祉団体が、町の福祉センターを活用して活動の拠点にさせていただいているということもありましたが、近年やはりそういった老人クラブへの参加率の、低下とかというのは、日本全国で見られるところでございますし、これはやはりライフスタイルが、日本人のライフスタイルが変わっていくと。やはりその、例えば農家の方が多かった時代から、勤め人が多くなったりすると、やっぱ老後の過ごし方人との交流の仕方っていうのも、大きく変わってくるのだらうなと思えます。こういったそれぞれの皆さんが健康づくりところにまず考えていただき、ここに温泉も活用していただけるような、町民の皆さんが、そういった目標を共有して、それに温泉も活用して向かっていけるような方向性を考えることができればと思ったところです。</p>
村上 企画 課長	<p>はい、ありがとうございました。質問とかっていうよりは、補足というか、さらにはということですね。それでは、その他いかがでしょうか。では、米田委員お願いいたします。</p>
米田 委員	<p>一つ、お伺いしたいんですけども、ターゲット、年齢っていうのは、いわゆるご高齢の方だけに絞っていますか。それとも、小さい幼児からも含めてとといったようなことでしょうか。</p>

青木 地域 振興 監	<p>はい。ターゲットをどうかっていう話です。先ほども私のちょっとコメントの中にいれておりましたけれども、当然、健康もいろんなターゲット、世代がありますし、温泉の生かし方もあると思いますので、特に高齢者に限った話をしようというつもりはございません。先ほど健康づくりの現状について、福田保健師さんが言われた、町民の声という中に出てきたような内容も含めてですね、話は進めていきたいなというふうに思っております。ただどうしてもフレイル予防とかそういった分野になりますと、高齢者の方に少しウエイトというか、関心事の高さというのはちょっと出てくる可能性はあるのかなというふうに思っておりますけれども。逆に言うとファミリーとか先を見た健康づくりというか、そういったことも視野に入れた仕組みといいますか、やり方を考えたいというふうに思っております。広く考えていただけたらと思います。</p>
村上 企画 課長	<p>その他いかがでしょうか。では、田村委員お願いします。</p>
田村 委員	<p>全然関係ないんですけど、僕は米子に住んでいて、その後、大山に移住して、こっちに移住してきたときに、日本遺産に認定された年に開業したんですが、日本遺産から日本遺産に移り住んできて、何といいところにおるなって思いながら、鳥取県民は自分たちのそんないいところにおることを自覚できてませんし、知らないし、よそから来て、こんなにうまいもんが溢れてるところはないって言われて、そういえばそうかなって気付くようなところがあると思います。温泉も同じで、僕らは、子供の頃にずっと来た、ラジウムガーデンがあればいいんじゃないかって思うような内容なんですけど。三朝ラジウムガーデンは子供の日の恒例の場所だったんですけども、そういったものでやっぱり生かしていくっていうことも必要だと思うんです。三朝温泉すごくいいのに、病気になったときに、他に行こうとしちゃう。知らないから。結局、情報発信がなされてないから、県民にも知られてない。こんなにいい温泉があるのっていうのが、あると思います。本来だったら、テレビとか新聞とかを読んで、こういうことでワーキンググループが発足するんだっていうことを発信していくと、成果が出てから発表するんじゃなくて、そこを皆で掘り起こそうとしてるっていうことが広報することで、どんどん浸透していくんだと思うので、そういったことも、忘れずにされるといいなというふうに思います。</p>
村上 企画 課長	<p>はい、ご意見ありがとうございました。情報発信、大変大事なことだと思います。私ども、情報発信の部署でございますけれども、ホームページ等も使って、しっかりやっていきたいと思っております。このワーキングでのポイントなんかも、できれば、そういうふうに考えていきたいと思っております。では他いかがでしょうか。よろしゅうございます。はい。では、ひとまず、ご質問いろいろいただいたということで、また大きなことありましたら、ご発言をいただければと思います。それでは、検討事項等については、ひとまず、しめたいと思っております。</p>

7 その他

村上 企画 課長	<p>次第の7番、その他でございます。まずこのワーキングの今後につきまして、事務局の方から補足でご説明を。申し上げたいと思います。お手元の資料4をご覧くださいと思います。</p>
岩本 係長	<p>2回目のワーキンググループ会議については、12月中旬に開催することとしています。可能な限り皆さんに御参加いただきたいと思っておりますので、日程調整をさせていただきます。別紙についてお手数ですが記入いただき、あらためてファックス、メールでお知らせください。どうぞよろしくお願いいたします。</p>
村上 企画 課長	<p>ワーキングの日程調整は、別紙一番下の方に紙をおつけしております。それに基づいて、ご回答をいただくというようなことを目安に考えておりますので、よろしくお願いいたします。FAXや電子メールでもOKです。</p>
青木地 域振興 監	<p>では、青木の方から、はい。ちょっと補足をさせていただきます。12月ということで、日程を調整はするわけですが、なかなか場合によっては都合がつかないとかということもあろうかと思えます。それで、まず、いわゆる日程を決める中では、事前資料として、協議のテーマと申しますか、柱立てのようなものを箇条書きにしたようなものを、ペーパーでこれはお出しをしたいと思えます。議論というか、意見交換の論点というか、ちょっとまだはっきりはしませんけれども、そういったものをお出しして、少し分類を明確にしながらか、お話をした方が多分出やすいのではないかなというふうに思えます。ちょっと雲を掴むような話になってもいいませんので、その辺は準備をさせていただいて、そこに向かって準備をしていただくということを進めさせていただきたいと思えます。都合上、ちょっと、その日は出られないというようなことが、当然起こりえますので、そこにつきましては、例えば、ペーパーで出していただくこともお受けしますし、ちょっと来てよ、という話であれば、出掛ける事務局ということで、お話をしにいかせてもらいます。分野とか協議テーマが少しはっきりしてれば、そこについて意見をもらって、一緒に加えていくことが可能になりますので、そこは事務局と一緒にフットワークよく、対応したいと思っておりますので、ぜひご参加をしていただきたいのは、もちろんそう思っておりますが、その辺を少し留意してやりたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。</p>
村上 企画 課長	<p>ありがとうございました。会議が円滑に進むように、全力で向かって参りますので、よろしくお願いいたします。それでは本日事務局の方から用意しました議題説明については、すべて、終えたところでございます。</p> <p>最後に、委員の皆様、から、全体を通して、何か言っておきたいということが、或いは聞きたいことがございましたらお受けをしたいと思えます。いかがでしょうか。どういったことでも構いません。よろしゅうございますか。はい。</p> <p>では、2回目の会合で、いろいろぶつけていただければと思えますので、よろしくお願いいたします。それでは、8時を過ぎてしまいました。以上をもちまして、第1回の、温泉を活用した健康まちづくり事業ワーキンググループ会議を閉会したいと思います。皆様どうぞ協力ありがとうございました。</p>